

課題 1 — L^AT_EX 2_ε の練習

学科専攻

番号氏名

2016 年 10 月 18 日

概要

L^AT_EX 2_ε についてのこれまでのまとめと補足の文書を用いた練習である。太字の部分は L^AT_EX 2_ε が勝手にしたものである。

目次

1	T_EX の歴史	1
1.1	T _E X	1
1.2	L ^A T _E X	1
2	L^AT_EX 2_ε の文法の要約	1
3	環境	2

1 T_EX の歴史

1.1 T_EX

Turing(チューリング) 賞、京都賞を受賞したコンピュータ科学者 Donald E. Knuth(クヌース) は *The Art of Computer Programming* の第 1 巻を 1968 年、第 2 巻を 1969 年、第 3 巻を 1973 年に出版した。第 1 巻の第 2 版まではすべて職人が活字を組む活版印刷で作られた。第 2 巻の第 2 版はいったんコンピュータで組版されたが、出来上がりにクヌースは失望し、出版を見合わせ、活版印刷に劣らない美しい組版の出来るコンピュータソフトウェア T_EX の開発を開始し、第 2 巻第 2 版を T_EX により組版し 1981 年に出版した。

クヌースはその後も T_EX やフォントの改良を行い、1982 年に現在の T_EX とほぼ同じものを完成させた。T_EX はフリーソフトとして公開されている。

1.2 L^AT_EX

L^AT_EX は DEC(現 HP) のコンピュータ科学者 Leslie Lamport(ランポート) が 1982 年頃開発した T_EX から発生したバージョンである。、文書整形のコマンドよりもテキストの構造に神経を集中させることで、ユーザが組版にかかる手間を省けるように一群のコマンドを T_EX に追加した。1993 年に L^AT_EX 2_ε という新しい L^AT_EX ができた。

2 L^AT_EX 2_ε の文法の要約

- ソースファイルの拡張子は `tex` である。
- ソースファイルの先頭に半角で `\documentclass{jsarticle}` とかく。
- 本文は `\begin{document}` と `\end{document}` ではさむ。
- 本文は地の文と L^AT_EX 2_ε のコマンドからなる。
- コマンドは `\` で始まり、(`\西暦` など一部の例外を除き) 半角英字を用いる。
- コマンドと地の文の間には半角空白をいれる。ただし、コマンドの後ろに数字が続く場合は空白をいれる必要はない。
- コマンドは引数を取るもの (たとえば、`\title`) と単独で用いるもの (たとえば、`\maketitle`) がある。
- 半角アルファベットの大文字と小文字は区別される。たとえば、`\large` と `\Large` と `\LARGE` は別のコマンドである。
- 10 個の特殊文字 `# $ % { } _ ^ ~ \` はそのまま入力しても出力されない。
- ソースファイルの改行と組版された文書の改行は別である。
- Mathématiques の é ようなアクセントは `\'` などのコマンドを用いる。

3 環境

L^AT_EX は文書構造を環境により実現している。環境は

```
\begin{環境名}  
本体  
\end{環境名}
```

で表される。

これまでに扱った環境には以下のものがある。

1. abstract
2. center
3. description
4. enumerate
5. flushleft
6. flushright
7. itemize
8. quotation
9. quote
10. verbatim

以上